令和３年度

佐那河内小学校「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校９年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 佐々木　加奈	委員　校長：内田洋一　教頭：佐古晴輝　教務主任：清水愛 特別支援コーディネーター：和田久美子　人権教育主事：川上可南子 低学年推進員：杉原萌里　国語主任：清水愛 高学年推進員：佐々木加奈　算数主任：福田明美

校長

内田　洋一

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

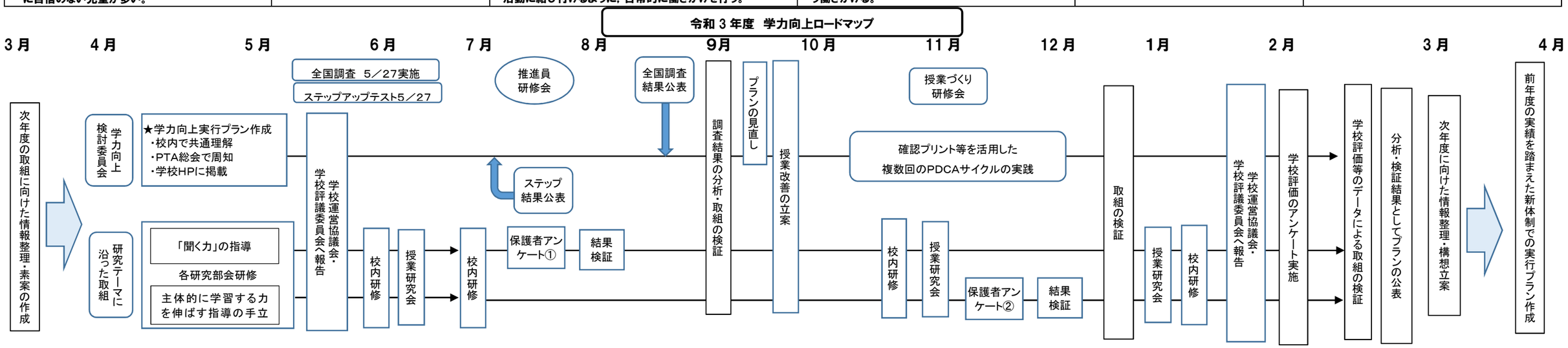
管理職，小中教員による授業参観や報告，研修会等，様々な機会を捉え，取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○獲得した知識や技能を様々な場面で使おうとしている。漢字の読み書きや基本的な計算の習熟については，一定の成果が見られる。 ●学力の個人差が大きい。漢字やローマ字を確実に覚えていなかったり，漢字を文章中で適切に使えていなかったりする。苦手と感じている分野に対する知識獲得への意欲が乏しい傾向が見られる。	・漢字の読み書きや正確な計算等の基礎的・基本的な知識・技能を身に付け，意欲的に他教科等や生活の中で使うことができる。 ・語彙数を増やすとともに，正しい言葉や漢字で文章を読んだり書いたりできる。 ・学習した知識・技能が社会でどのように活用されているかを意識することができる。	・小テストを実施したり，振り返りを利用したりし，個々の到達度を把握する。 ・タブレットのドリルアプリ等を活用し，漢字・計算等を繰り返し個々の習熟度の向上を図る。 ・朝の１０分間読書や週末読書を奨励するとともに，文章表現や漢字を適切に使えているかの点検等，ノートや日記，作文の指導を充実させる。	・取り組みの継続 ・タブレットの操作にも慣れ，授業中や家庭学習で効果的に活用することができている。 ・「は」「を」の誤りや句読点の抜け，学年相当の漢字を適切に使えている児童がまだ少ないため，引き続き，点検や指導を継続する。	・朝の読書の時間や週末読書を継続し読書が習慣化してきているが,できていない学年もある。 ・図書室の読書啓発活動が充実しているため，児童が楽しく日常的に図書室を利用している。 ・タブレットのドリルアプリの継続的な使用により，自分の力に合った内容を必要に応じて自分で繰り返し反復学習に取り組むことができるようになりつつある。	・タブレットのドリルアプリの使用状況の把握した上で個々の状況に応じた指導を行うまでには至っていないので，今後はさらによりよい指導・活用法を探っていく必要がある。 ・読書は語彙を増やすだけでなく，心を豊かにするためにも必要なことである。週末読書の際には,子どもに任せるのではなく，借りに行く時間をとるなど機会を保障する必要がある。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○既習内容を基にして，新しい考え方を導き出したり，表現できたりする児童が多い。多角的な視点で思考しようとしたり，自分の考えを積極的に発表し，文章で表現しようとしたりする力が付いてきた。 ●理由付けをする，具体例を挙げる等，筋道を立てて説明したり，文章を書いたりすることに課題がある。要点を整理したり，関連付けたりする等の力にも個人差がある。	・目的や相手，意図を意識し，根拠や理由を明らかにして，自分の考えを積極的に話したり，書いたりできる。 ・目的や相手，意図に応じて，内容や方法を考えながら文章や絵・図等を組み合わせたり，資料を適切に使用したりし，自分の考えを表現することができる。	・学習の過程を明確にし，児童が自分の考えを筋道立てて話したり，書いたりする時間を設ける。（ナビや手引きの利用） ・月２回 NIE の実践，また新聞の教材としての活用や国語科での並行読書等，様々な文章や資料を読む機会を設ける。 ・朝の活動の時間や，授業の中でプログラミング的思考を意識的・意図的に育成する。 ・アプリ等を用いた，タブレットの効果的な活用の仕方の研修を行う。	・取り組みの継続 ・話し合い活動やグループワーク等で，自分の考えを理由とともに伝える力がついてきているが，資料や絵を活かして表現することには，課題がある。 ・今後は，タブレットのアプリ等も活用し，より分かりやすく，効果的に表現する力を身に付けられるようにする。	・タブレットで撮影した写真を活用して，分かったことや自分の考えをまとめ，発表することができた。児童も表現がしやすいと感じていたり，友達の発表が分かりやすいと感じたりしていた。 ・友達の意見を受けて，それについてどう思うかを述べる力には課題が見られた。	・自分の考えをまとめる時に，プログラミング教育を通じてタブレット上でチャート図などに表現する活動を行っていく等の方策を検討し，表現力の向上を図る。 ・情報を整理したり，活用したりして，自分の考えを伝えるような活動を継続的に行う。その際，様々な発表の形式で行う。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習習慣が身に付き，落ち着いて話を聞き，真面目な学習態度の児童が多い。与えられた課題について積極的に取り組んでいる。読書を好意的に捉えている児童が多い。ワークやプリント等の間違いを直す活動には，真面目に取り組む。 ●宿題以外の学習に興味をもって取り組もうとする意欲が乏しい。自ら課題を見付けて取り組んだり，学びを振り返ったりするなど，能動的に学習に取り組むことが苦手である。現状に満足し，自分の考えや答えに自信のない児童が多い。	・自分の考えを話す，友達の意見を聞く等の豊かな言語活動を通して，わかり合う喜びを感じることができる。 ・学習課題を自分の課題として具体的に考えて取り組み，学びを振り返ることが出来る。 ・自分自身を向上させたいという意欲をもち，自主的に学習に取り組むことができる。	・振り返りの視点を提示し，児童が自分の学びを可視化できるようにするとともに，教師が指導に生かすことができるようにする。 ・「家庭学習の手引き」を配布し，学年に応じた時間や内容で家庭学習ができるように家庭と協力して取り組むとともに，家庭学習時間の調査を行い，保護者への家庭学習の重要性の啓発を行う。また，手引きをもとにした自学ノートの公開等も行う。 ・村内のニュースや教科の学習に関連する社会の出来事を学習活動に結び付けるように，日常的に働きかけを行う。	・取り組みの継続 ・学習習慣は定着してきたが，２分前着席ができていない児童がいる。 ・どの学習課題に対しても，前向きに取り組むことができている。しかし，学習した内容を自分の生活と関連付けたり，自ら課題を見付けたりしようとする意欲はまだまだ乏しい。授業のまとめや自主学習等で，児童が学びを振り返ってさらに知りたいと思ったことや，課題であると感じていることを確認し，能動的に学習に取り組めるよう働きかける。	・学習習慣は定着しつつあるので，引き続き学習規律の確認・徹底を全校で行っていく。 ・自学ノートを公開することにより,自分なりの方法を見付け，進んで自主学習に取り組む児童が増えた。 ・振り返りの時間をしっかりとることで,児童が学びの成果や課題を自覚したり，教員の指導改善につなげられたりしている。	・児童がタブレットを自由に使用できる機会を増やすことは，意欲の向上につながると考えられるため，「どのような内容の活動をどの程度行うことができるか」という許容範囲を協議の上策定し，児童の自主的なタブレット使用を促していく。 ・子どもが自発的に２分前着席できるように,２分前着席をすることの良さについて,その発達段階に合わせて話したり考えさせたりする。